

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について（速報） 〔2010年1-6月期〕

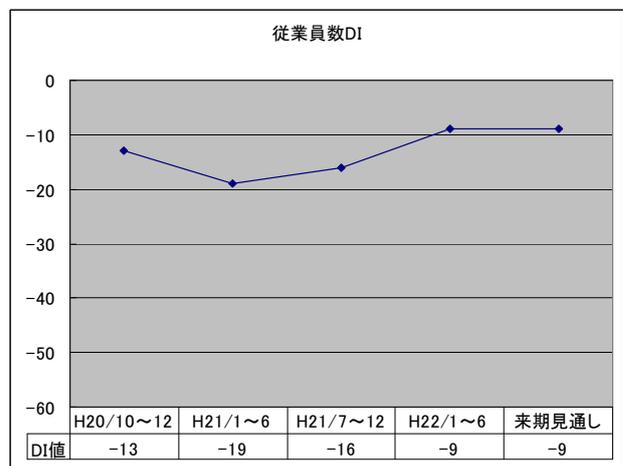
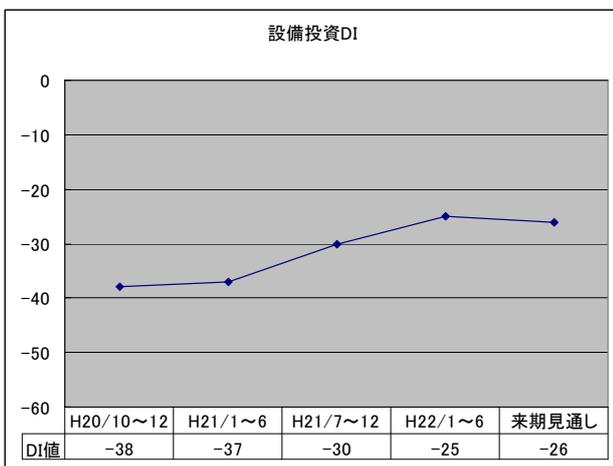
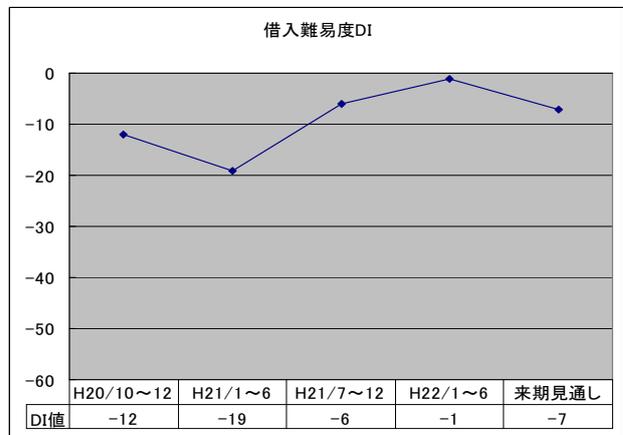
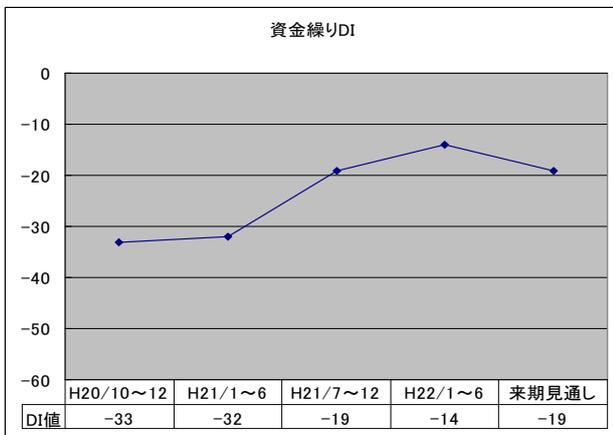
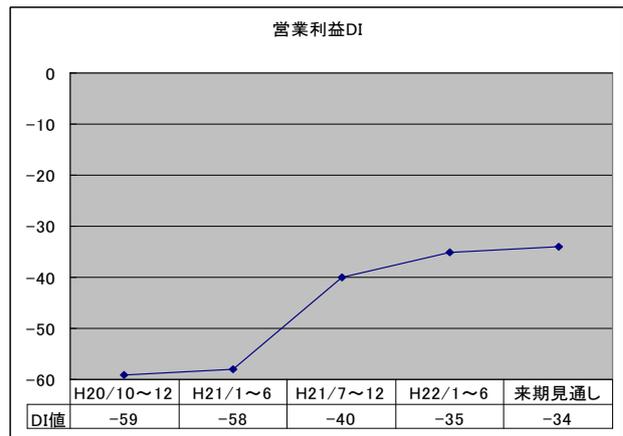
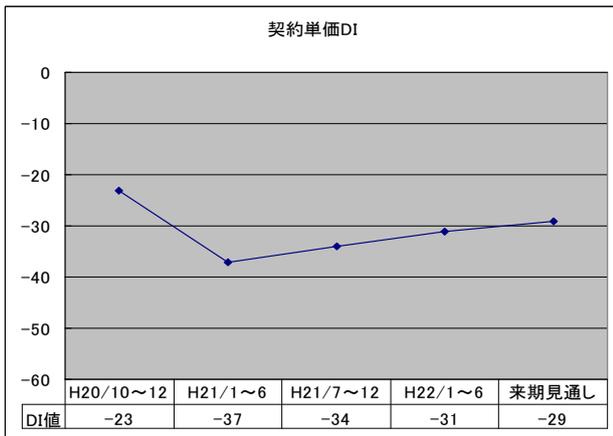
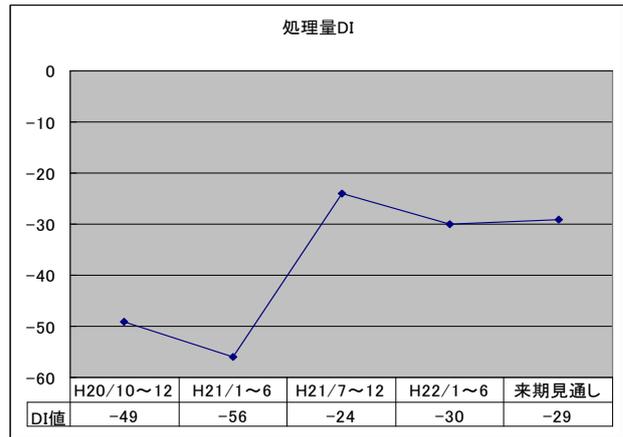
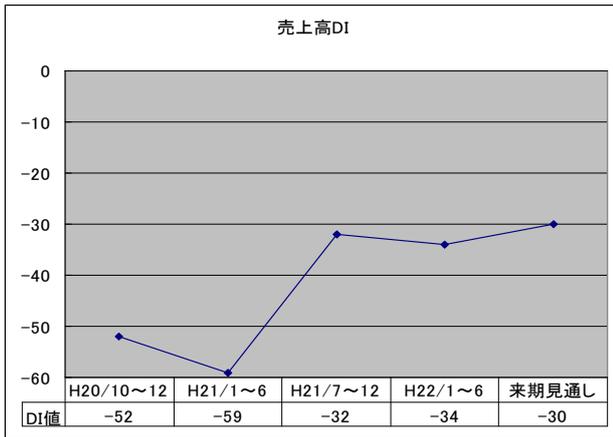
当連合会は全国の協会会員企業の協力を得て、平成22年1月-6月期日の景況動向調査を実施し、調査結果を次の通りまとめました。

《調査結果》

業況は持ち直しの動きが見られるものの、景況判断を「好転」とした企業は4%に過ぎず、依然として厳しい状況である。

- 2010年1-6月期の景況判断を「悪化」とした企業は57%で前回調査（2009年7-12月期67%）よりも10ポイント改善しているが、「好転」とした企業は4%で前回調査（6%）よりも2ポイント悪化している。業界環境は依然として厳しい状況である。
- 以下、業況感DI（「好転」・「増加」－「悪化」・「減少」の企業割合）の内訳
 - ・景況判断DIは▲53で、平成21年7-12月期から8ポイント改善。
 - ・売上高DIは▲34で、平成21年7-12月期から2ポイント悪化。
 - ・処理量DIは▲30で、平成21年7-12月期から6ポイント悪化。
 - ・契約単価DIは▲31で、平成21年7-12月期から3ポイント改善。
 - ・営業利益DIは▲35で、平成21年7-12月期から5ポイント改善。
 - ・資金繰りDIは▲14で、平成21年7-12月期から5ポイント改善。
 - ・借入難易度DIは▲1で、平成21年7-12月期から5ポイント改善。
 - ・設備投資DIは▲25で、平成21年7-12月期から5ポイント改善。
 - ・従業員数DIは▲9で、平成21年7-12月期から7ポイント改善。
- 今後の景況感DIの見通しは、景況判断DIで▲50となっている。
- 売上高の動向については、平成22年1-3月期で前年同期比（3ヶ月平均）▲12.2%、平成22年4-6月期で前年同期比（3ヶ月平均）▲6.8%となっている。
- 処理量の動向については、平成22年1-3月期で前年同期比（3ヶ月平均）42.8%、平成22年4-6月期で前年同期比（3ヶ月平均）98.1%となっている。
- 経常利益率については、「5%未満」35.4%、「5-10%未満」19.1%、「10%以上」14.0%、「把握なし」31.5%となっている。
- 経営上の問題点については、1位「同業者相互の価格競争の激化」、2位「需要の停滞」、3位「顧客先からの値下げ要請」、4位「取引先の減少」、5位「人件費以外の費用増加」となっている。

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。



《調査の要領》

- 調査の対象：前回の調査（2008年10-12月期）で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送及びメールによるアンケート
- 調査期間：平成22年7月23日～8月31日
- 回答企業数：485社